

平成28年 4月19日

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp

HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

南半球産百合球根

3～4日ほど、N.Z球根生産圃場調査に行ってきました。
そういう意味では最新情報です。

冬場の切花栽培条件の悪いところから徐々に広がりを見せてきた『切花作型別に球根産地を使い分ける』
少なくとも四国地方にも興味を持って『実験的』に、一部では『実践的』に、そのウハウハが使われ始めたように見えます。

さらなる拡大は、一旦球根流通の複雑化を招くかもしれませんが、長い目で見れば…。

どちらかと言えば「作ったものを売るという考え方」をしている球根農家を、「皆さんの必要なものは何ですか？」という考え方に変えていきます。

消費低迷気味で球根購買力において勢いのある他国に対してやや苦戦している日本にとっては、とても良い事です。

日本市場が各国球根生産産地にとって、一見のお客様ではなく顧客となるという事。
日本の百合切花産業が原材料である球根を、自分たちに向けて作ってもらうという考え方。

今や資源だけではなく、加工食品原材料から消費材原材料の世界まで、商社的な右左に荷物を動かすという考え方から、安定的に材料の確保を行うという流れが出て来ている様に思います。

同じことでしょう！！（たこ焼きの中の知・カボコのスリ身になる魚＝色々な材料仕入れの方法が変化してきている…。）

面白いなあと思うのは、通信業や観光業、保険金融業に至るまで、そういった言葉で表現されていないだけで、中間卸売りの役割を果たす、新しい卸売機能を持った業態が台頭してきている事。

面白いなあと思います。

これも古きを温めて新しきを知るという流れなのですかねえ？

20～40代前半くらいの方々。

中間卸し、中卸が本来流通の為に果たしてきた役割って何なのだったと思います？

今後どうあるべきだと思います？

商品物流悪化の時代に考えなければいけないヒントがあるなあと思いました。

15年産 N.Z産/C.H産百合球根

5月連休明けに報告します。もう少し考えをまとめるのに時間をください。

16年産 N.Z産百合球根

アイト社 (NISコード販売分) …N.Z産産地において、唯一園芸地帯にある球根生産会社。
地域力が良い。

品質は良さそう。
球根太り過ぎる恐れあります。
芽が大きい…。やはりフランス・新潟型。遅い作型向き。
生産施設整備に本腰を上げてスタートした。良かった。

バッカー社 (BKコード販売分) …N.Z 球根生産地においては農業地帯にある球根生産会社。自社の努力が必要。
品質はまずまず。

肥大は、ほんの2~3週間前まで遅れていて、肥大不足を心配していた。
2~4月までの天候のおかげで、肥大は回復傾向。普通作くらいにはなるのでは…。
そういうわけで、例年比較で球根肥大調整の為に茎切込み面積が少なかった。
芽は小さい。2Nはさらに小さい。やはりフランス・北海道型。早い作型向きだ。特に2Nは…。
生産施設・商品管理施設の拡大を図っている。良かった。

バンザン社 (当社において唯一の無印コード販売分。) …バッカー社同様農業生産地帯にある球根生産会社。
良くやっています。

一番取扱い数が多い。当社N.Z産のベース。
日本市場最大供給産地ですから、当社だけではなく、日本のベース産地！
言い過ぎ？
だけど、日本では一番安いから一番売れているわけではないという証明ですよ。
だって…安くはないですよ！この会社。
球根肥大は圃場にもよりますが、太り過ぎ。一部リゾグリア菌だと思われる病害が確認された圃場有り。
今年は肥大調整の為に茎切込み面積が比較的多かった。これ…、実行しなければ本当に太り過ぎになっていたと思います。
芽は小さい。2Nはさらに小さい。
やはりフランス・北海道型。早い作型向き。
品種によっては…もっとも広い作期をカバーしなければならない。

本当にご苦労をかけています。

ちなみに、北半球産は使用作型範囲が南半球産より広いので、本当の一番遅い作型は、新潟・フランスより芽の小さい北海道・フランスのほうが良くなるのが論理的です。南はせいぜい2月末くらいまでだから、12月後半から2月末までは新潟・フランス型の芽形成をする産地の球根が良いと考えているのです。

生産施設・商品管理施設の拡大を図っている。良かった。

昨年は、4月同時期にC.Hを訪問。ほぼ同じ行程で同じ調査を行っている。
北側産地 (ロシアシベリア・バルティック)・南側産地 (オランダ・その他) の傾向は、全くN.Zも一緒だという事が今回の訪問で改めて確認された。

フランス・フランスで言えば、9~10月

北海道・新潟で言えば、9~10月

N.Zで言えば、4月 (3月はまだ早い。)

C.Hで言えば、4月 (3月はまだ早い。)

この時期の芽を確認して、さらに本年岐阜県・高知県で行っている様な栽培調査方法で再現性が確認できれば、これは普及技術になるのかなあ、と感じました。

今回も昨年同様、当社を含む4~5軒の球根輸入業社と同行しました。

そのうち2名は昨年C.Hにも一緒に行ってくれた人物です。

彼らのノウハウが高まって、自分自身のノウハウとして自信につながっていけば…。

日本の百合切花産業の将来は明るい。

球根業社のノウハウは、もっともっと高めていかなければ…本当にそう思います。

それがお客様・切花農家の為だと思います。

彼らには当社次世代の教育を頼むつもりです。

よろしくお祈りしますね！！（30年前に自分にそうしてくれた方々に対して恩返しをしているだけです。業界人が業界人を育てるのがこの世界では通例。）

N.Z 訪問時、一人のオランダ 大手切花及び球根生産会社の社長が、一日半位同行しました。

C.H において、3 軒の球根栽培会社にて、自分で消費する、又は販売用球根も委託生産している・生産していた会社です。（一部過去形。）

『N.Z/C.Hの最大の差は、かかわる人間の差だ。（良い悪いという意味ではありません。）』もっと早くに見にきていけば…とのコメント。

実際、オランダの球根業社関係者は、C.H を見ているケースが多く、N.Z を訪問した事のある方は本当に少ないとの事。

実は、ヨーロッパ市場から見た N.Z 産百合球根って『？』という存在。

ほとんどがアジア・オセアニアで消費されていますからね。

ヨーロッパから見れば、N.Z は遠いですしね～。

近い将来、N.Z 南島の一番南側にある（寒い！）チューリップ 球根産地は、その栽培面積は 400ha を超えてくるそうです。

品目ごとに気象条件・作る土地をちゃんと選んでいますね！

ところで C.H 産チューリップ は？

今回も面白い出張でした。

16 年産 C.H 産百合球根

現在輸出業社から聞き取り調査中です。

パイプ問題

本当の事を知ろうとする輸出業社の言葉を聞き分けて、本当の事を知ろうとする輸入業者が、本当の事を伝えようとしてくれる輸出業社の説明を、今わかっている本当の事として、切花生産者に伝えていく事がこの問題を解決するのではなく、縮小していく事につながると信じています。

良い球根を売ります。

良い球根を買います。…という単純な話ではもうなくなっているのだという事。

この産業に関わる人間のリスクだと考えています。

もうこれ事は止めましょう。

真正面から取り組みましょう！

以上
森山 隆



<http://www.lily-promotion.jp/>

私共はLPJの趣旨に賛同し
協力・応援しています